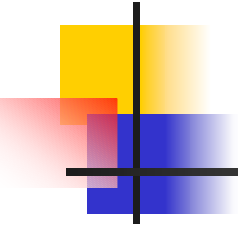




# 第3四半期決算(累計) 説明資料

---

2004年2月  
大阪ガス株式会社



インターネットを通じて定期的に経営情報を発信しています

下記のURLで、決算短信、アニュアルレポート、説明会資料等を閲覧・ダウンロードすることが可能です。

[http://www.osakagas.co.jp/ir/index\\_e.html](http://www.osakagas.co.jp/ir/index_e.html)

#### 「見通し」に関する注意事項

このプレゼンテーションには、将来の業績に関する見通し、計画、戦略などが含まれており、これらは現在入手可能な情報から得られた当社グループの判断に基づいております。実際の業績は、さまざまな重要な要素により、これら業績の見通しとは大きく異なる結果となりうることをご承知おきください。実際の業績に影響を与えうる重要な要素には、日本経済の動向、急激な為替相場・原油価格の変動並びに天候の異変等があります。

# 連結決算の概況

億円	12月累計	年間見通	進捗率
総売上高	6,501	9,660	67.3%
営業費用	5,953	8,815	67.5%
営業利益	547	845	64.7%
経常利益	498	775	64.3%
当期利益	278	425	65.4%

4月及び10月時点での業績予想から変更ありません。

- 【個別】原材料費 為替・原油価格
  - 下期想定29\$/bbl・115円/\$に対して、円高に推移。原油は想定水準。
  - 円高による第4四半期の原料費低減効果(約20億円)を見通しに追加。(費用減)
- その他費用
  - 全般にコストダウンが進展(費用減)
  - 敦賀用地関連費用を今期追加計上見込み(費用増)

# 個別決算の概況

今回見通しを変更した個所を背景黄色で表示しています。

億円	12月累計	年間見通	進捗率
ガス売上高	3,859	5,740	67.2%
営雑・附帯収益	1,091	1,560	69.9%
総売上高	4,951	7,300	67.8%
原材料費	1,277	1,835	69.6%
労務費・償却費・諸経費	2,318	3,374	68.7%
営雑・附帯費用	978	1,451	67.4%
営業費用	4,574	6,660	68.7%
営業利益	376	640	58.8%
営業外損益	3	20	
経常利益	372	620	
特別損益	28	30	

数値は切捨て表示のため、合計が一致しない場合があります。

# ガス販売実績と見通し

45MJ/m <sup>3</sup>	03.3月期		04.3月期		
	12月累計	年度実績	12月累計	差異	年度見通
平均気温 (C)	20.2	16.8	20.2	0	17.0
新設工事件数 (千件)	84	135	87	+3	131
家庭用	1,391	2,298	1,404	+13	2,334
商業用	743	986	743	0	1,012
公医療用	383	550	389	+6	570
工業用	2,726	3,686	2,742	+16	3,659
業務用計	3,853	5,222	3,874	+21	5,241
卸供給	114	168	118	+4	173
(百万m <sup>3</sup> )					
ガス販売量合計	5,357	7,687	5,397	+40	7,748
うち大口供給	2,642	3,562	2,660	+18	3,571

# ガス販売分析 (12月累計前年同期比)

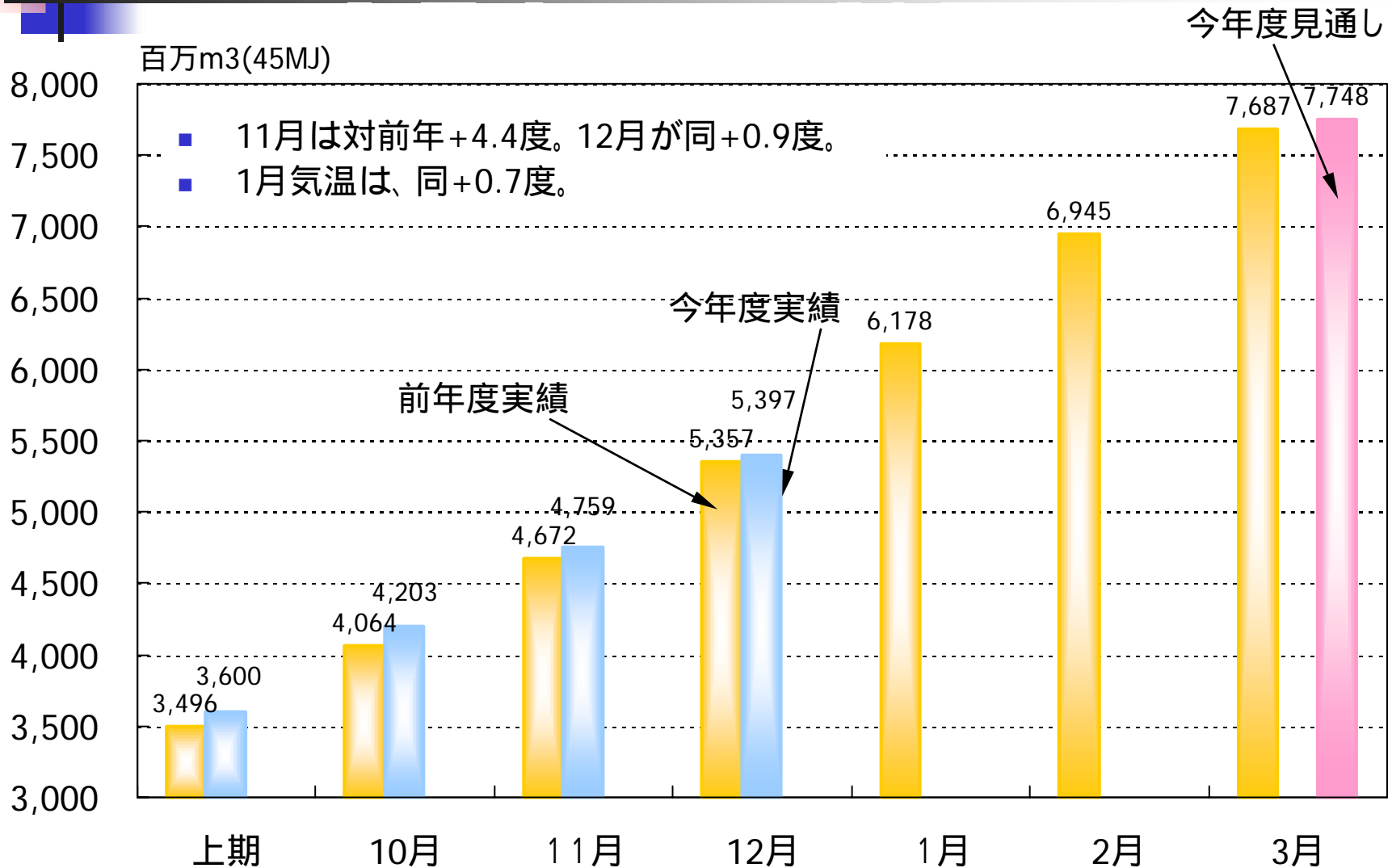
## 家庭用

件数増減	+0.8%
気水温影響	+1.2%
日数影響	1.0%
機器販売効果	+0.9%
構造変化等他要因	0.9%
合計	+1.0%

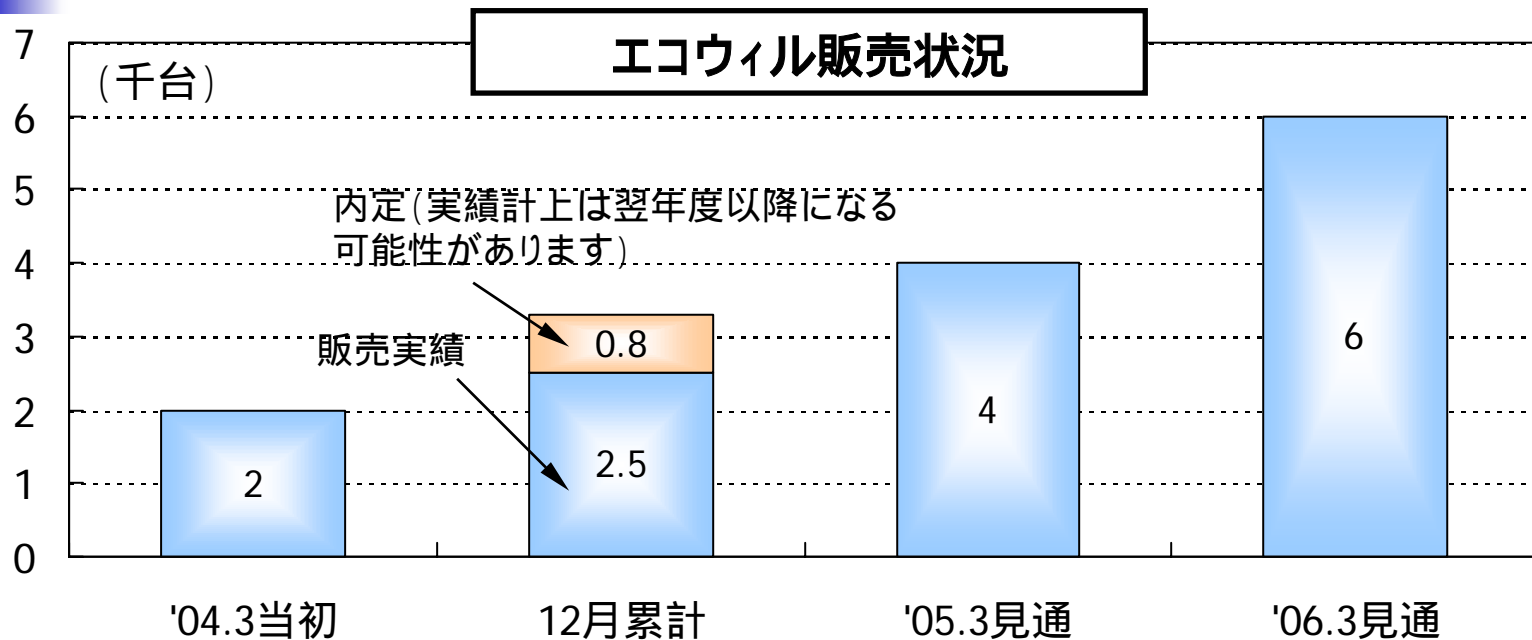
## 業務用

	商公医療用	工業用
需要開発	8.7%	5.7%
気温影響	2.7%	---
接続供給へ	---	1.7%
稼動増減等	5.5%	3.4%
合計	+0.6%	+0.6%

# 各月末迄の累積ガス販売量



# 家庭用ガス需要開発



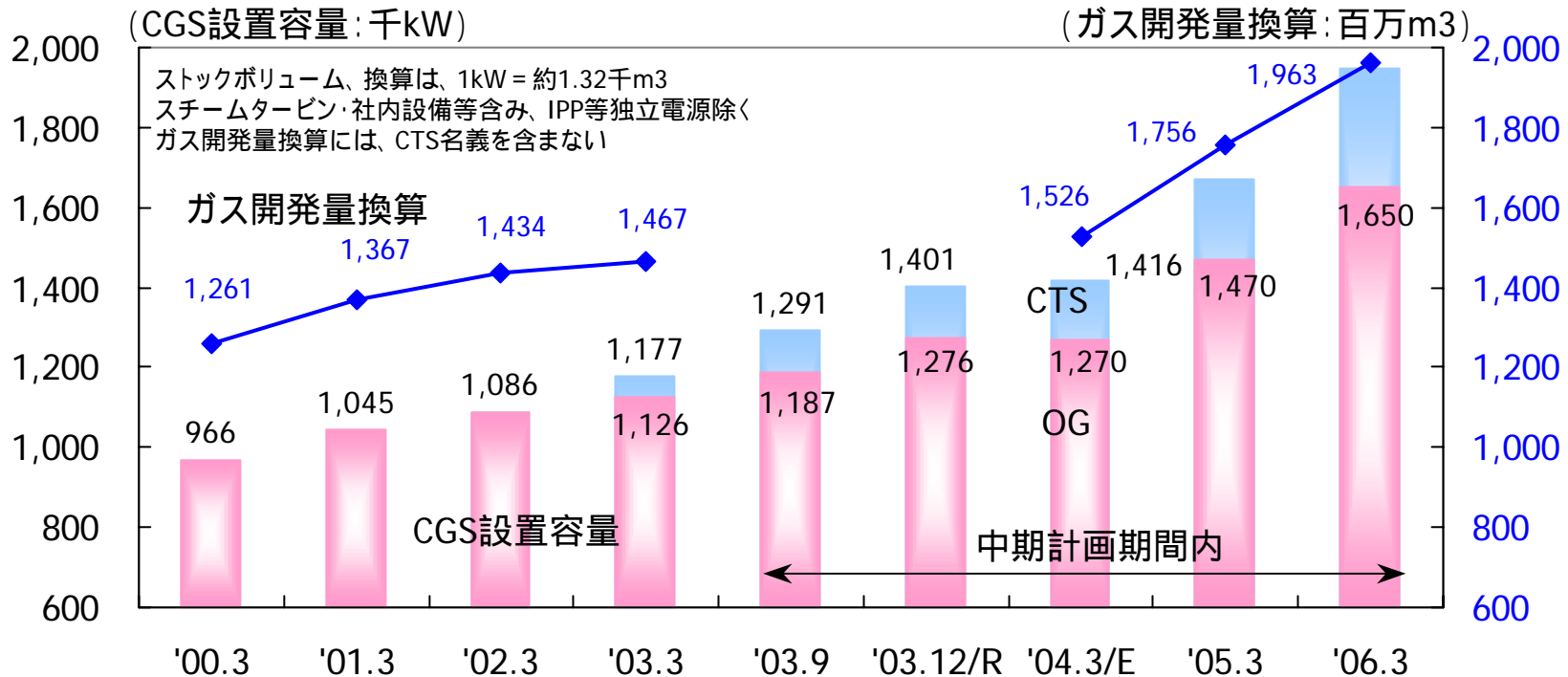
千台	03.3月期	04.3月期	
	累計実績	当初見通	最新見通
床暖房	165	162	173
ファンヒーター	188	210	210
ガラストップコンロ	38	62	62



# 業務用ガス需要開発

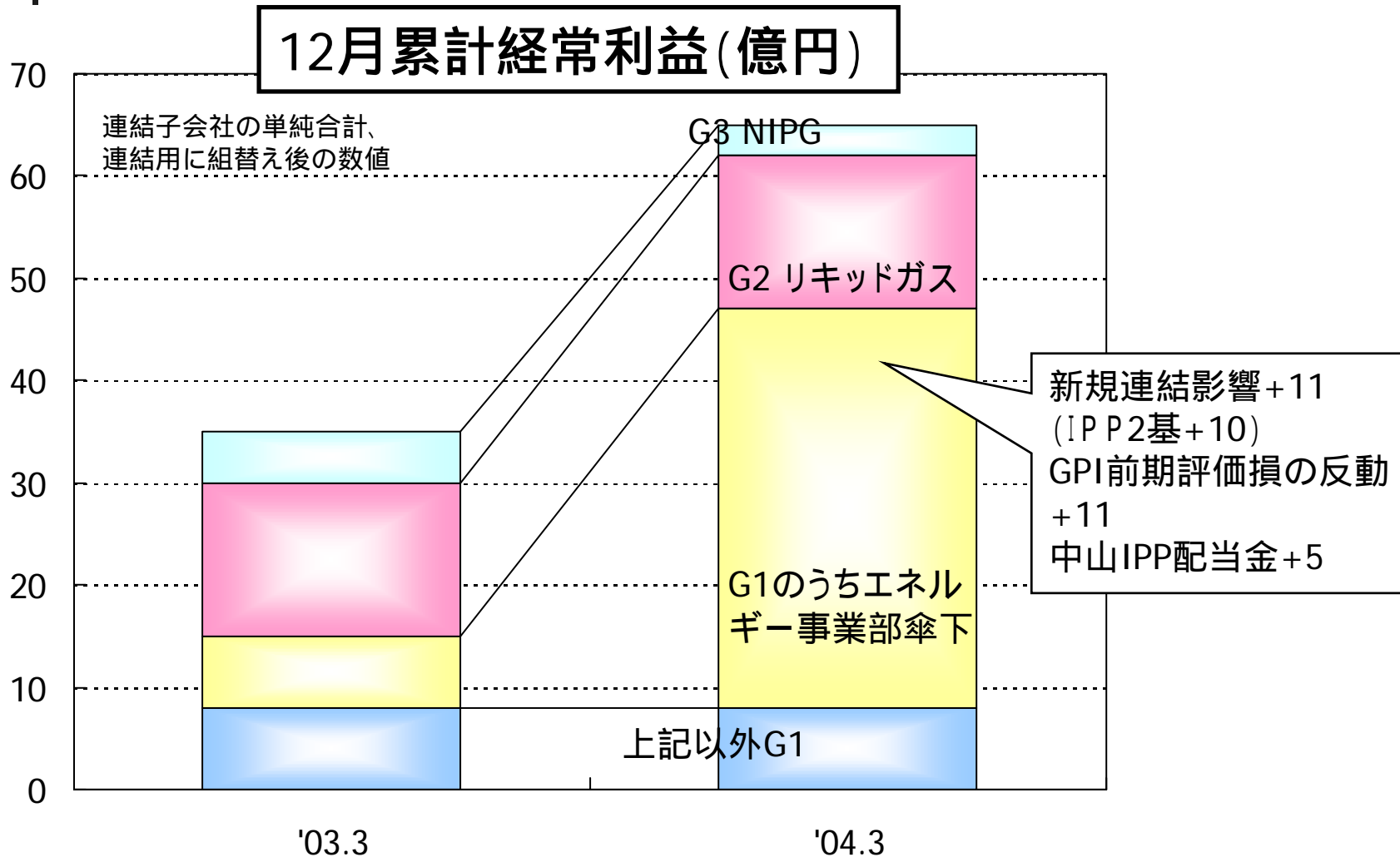
	03.3月期 累計実績	04.3月期	
		当初見通	最新見通
CGS開発容量(千kW)	176	120	138
ガス空調(千RT)	180	178	179

下記CTS分及び、リキッドガス・NIPG獲得分は含まない。

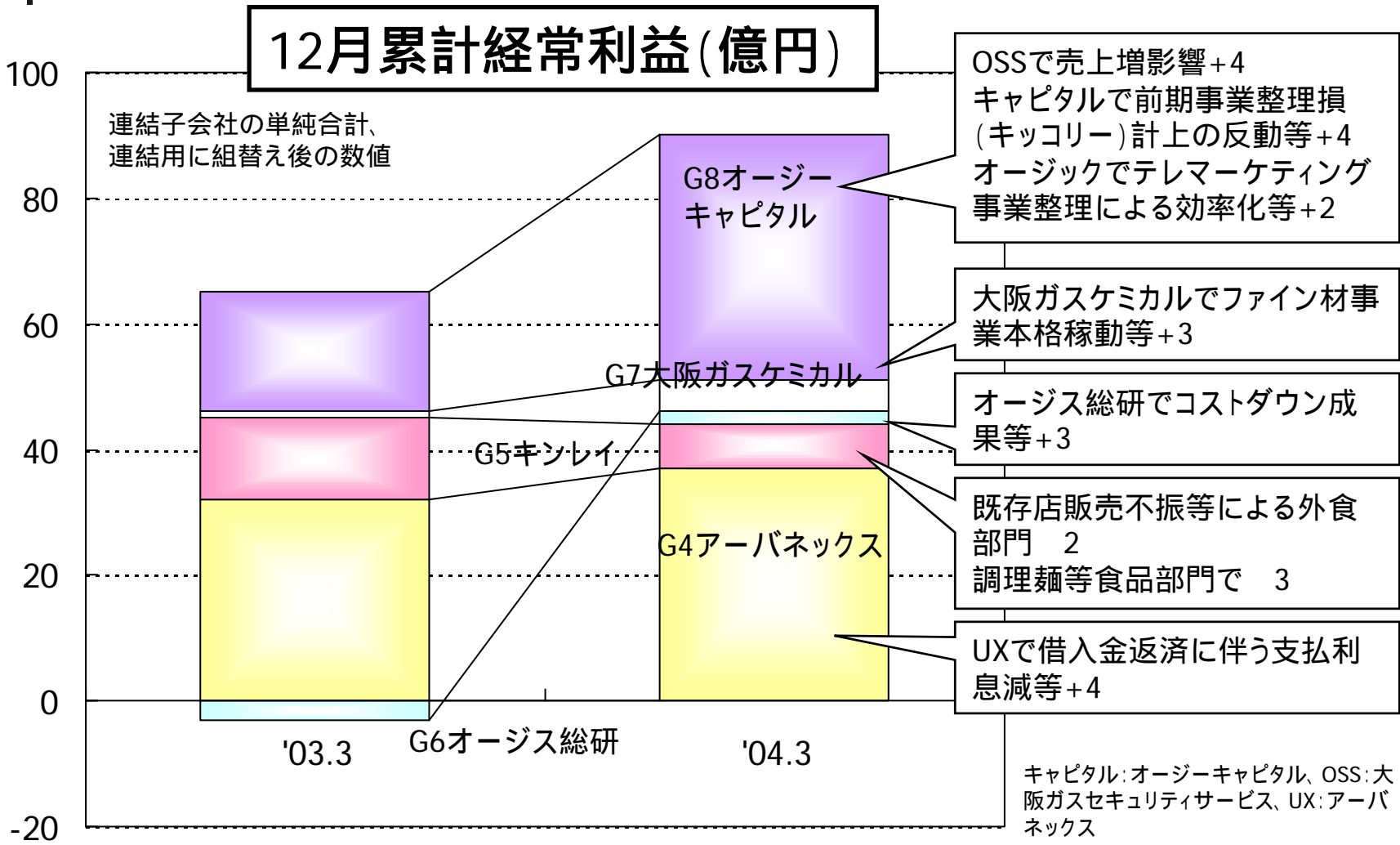


上表は契約時点での計上、下グラフは設置時点の計上のため、年度増分は一致しません。

# エネルギービジネスの概況

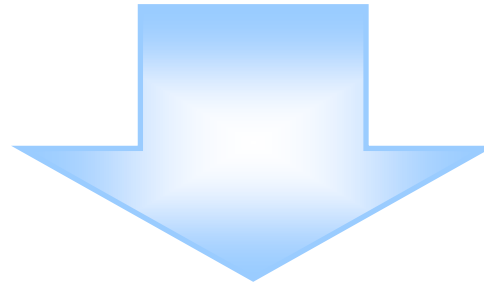


# 都市ビジネスの概況



# 次年度利益目標の考え方

- 05年3月期目標を達成することで、イノベーション100最終年度(06年3月期)への道筋が明確化する水準。



05年3月期目標 > 3ヵ年計画の(1年目+3年目) / 2